

ななむら

第57号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和2年3月1日現在

世帯数 536世帯

人口 1,511人

(男705人、女806人)

『新型コロナウイルス』の影響が非常に大きい！

3月から再開を予定していました「メディカルヨガ教室」と「ななむらうぐいす会」のカラオケ練習が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催することができませんでした。先の見えない状況に戸惑っていますが、そうした中、新温泉町を含む但馬全域の小中学校が近隣地域で発生していないとして、3月16日から学校を再開し、各学校とも卒業式を無事終え本当に良かったなと思っています。

この「新型コロナウイルス」の感染拡大で、色んなところで影響が出ていますが、困っている方達を応援しようと、こころ温まる取り組みがテレビ等で紹介されています。本当に素晴らしい取り組みだなと思います。例えば、卒業式のできない卒業生への応援メッセージ、有名アーティストによるコンサート等の無料配信、お客さんが少なくなった旅館や商店への応援、手づくりマスクの寄贈等々ありました。

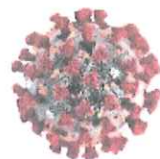
誰もが大変なときに支え合っていくこの行動に強く感銘を受けました。それなのに、何もできない自分に歯がゆさを感じます。

何とか終息に向かってくれればと思いますが、長引くとの見方が大半です。皆さんも気を付けて生活して下さい。

新型コロナウイルスの生存期間

SARS-CoV-2(新型コロナウイルスの正式名称)の環境中の生存期間を調べた

空気中*	3時間
銅の表面	4時間
ボール紙の表面	24時間
プラスチックの表面	2～3日間
ステンレスの表面	2～3日間



米疾病対策センター(CDC)とカリフォルニア大学ロサンゼルス校、プリンストン大学の研究チームが米医学誌「ニューイングランド医学ジャーナル」に発表

*新型コロナウイルスを含んだ液体を噴霧し、「エアロゾル」と呼ばれる微粒子にした

AFP

照来小学校の卒業式が行われました！

新型コロナウイルスに負けることなく、例年どおり3月19日(木)照来小学校の卒業式が行なわれ、13名の児童が卒業されました。卒業生の皆さん、保護者の皆さん、本当にご卒業おめでとうございます。また、先生方、新型コロナウイルスの影響で、今まで経験したことのない一斉休校といったこともあり、大変ご苦労されたことと思いますが、無事終えることができ心からお祝い申し上げます。

✿ご卒業おめでとうございます✿

卒業生のみなさん、この6年間、どうでしたか？

6年間、みなさんは、学校の先生方、ご家族のみなさんと大勢の方々のお世話になって卒業できました。感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

また、学校の友達同士が、ともに助け合い、支え合い、励まし合いながら、小学校生活を送ってきたことと思います。

これからもそうした気持ちを忘れずに、中学校生活を送ってください。

照来地区公民館長

『行き詰まりは展開の一步である』



てらぎ小学校に 夢と希望を胸に入学
らんどせるを背負って 通った6年間
ぎこちなかった姿は もう昔のこと

4月の事業予定

新型コロナウイルスの影響で、予定が立ちません。決定次第連絡いたします。

『照来の七不思議』

「照来の七不思議」皆さんご存知ですか？
文献には、以下のようなものが載っています。

- ・切畑 「イボ岩」
- ・多子 「くぐり池」
- ・丹土 「丹土清水 たましじみ」
- ・中辻 「神掛山」
- ・塩山 「四本松」

これ以外の「七不思議」を知っているという方がおられましたら教えてください。

**ご意見をいただきました！
ありがとうございます**

前号の「照来の歴史」『豊臣秀吉が照来を通過！』を読まれてのご意見でした。読まれていただいていて本当にうれしく思います。

ご意見では、「豊臣軍は、飯野だけでなく多子にも寄っていますよ。」とのことでした。

確かに、豊臣軍は多子城（河崎城）を落城させてから飯野に向かっています。そのとおりです。

こうしたご意見をこれからもお願いします。

■連絡先：照来地区公民館長 山本清孝

☎ 92-1738

照来の歴史⑬ 『照来の由来』 照来と誰が名付けた？

前照来考より（大正3年12月編 宮脇崇一原著）抜粋

〔照来の郷名由来〕

『倭名類聚鈔（わみょうるいじゅしょう）（平安時代の漢和辞書）によれば、二方国内に9の郷名がある。即ち久斗（久土）、二方（布多加多）、田公（多木美）、大庭（於保無波）、八太（波太）、陽口、刀岐、熊野、温泉（由）である。括弧内は訓であって此の内八太は現在の八田であるが、陽口、刀岐、熊野には訓がない。この3つがどこなのか種々意見が分かれている。

二方考によれば、想像されるのは、陽口は滝田（現在の対田）、浜坂、福富。刀岐は照来、熊野は熊谷付近であると記している。

刀岐なる郷名は、如何様に読んで見ても、二方内には他に類似の郷名がない。

今の照来を往古テラギと呼んだ証拠は無いが、郷名のある可き此の地に郷名を欠く点よりして、此の刀岐こそ古い昔の此の地の郷名に相違ない。

此の刀岐なる文字を如何に読むかと云う事であるが、刀、槍等の武器を白く光る事から白兵と云う様に、刀と云う字をテラス、テル等の形容からテルと発音し、刀岐をテラギと読んだものではなかろうか。

但馬考の著者桜井勉氏は、刀岐は今の照来の地であろうと云っているのは卓見であるが、その説明に凡そ古書には誤りが多いから、刀岐は恐らく元は照来であったものが、照の字の刀のみ残して、その他を失くしものかも知れぬと云っている。

ただ、桜井氏に照会したところ憶測に過ぎないと云っている。

その後、郷名が寺木と改まった。

刀岐が寺木となった年代は不明だが、隣村の八太が後に八田と作り変えられたと同様であると考えられる。

寺木が現在の照来となったのは、寺木の文字が余りにも無風流であるのを厭い、明治初年に、本稿著者崇一の祖父で、当時の大郷長であった「宮脇七左衛門質義」が、照来の佳字を選び、寺木を照来と改めた。』

